



今年も被災地清掃

江陵高野球部、福島遠征出発

「幸せ、感謝感じて」

【幕別】江陵高校(鈴木護二校長、生徒348人)の野球部(山本颯大朗主将、部員26人)は、福島県への遠征合宿に合わせ、東日本大震災の被災地の視察や河川清掃ボランティアを行う。昨年に続く取り組みで、21日に出発した。

訪問するのは福島県郡山市。強豪・日大東北の合宿所を拠点に、28日まで県内の強豪校と練習試合を行うなど強化を図る。

清掃と視察は、ともに22日に行う。清掃は同県阿武

「今年も被災地の現状を目に焼き付けたい」と話す部員たち。前列中央が山本主将

隈川河川敷で実施。昨年は1時間ほど行ったが、今回は総勢100人ほどの日大東北野球部の部員も一緒に行く。また、清掃活動の前には宮城県内の被災地を回る。特に昨年も立ち寄って黙とうをささげた「江島共済会館」(津波で崩壊した遺構で現在は取り壊された)の跡も訪問する。

江陵高野球部は昨年、10年ぶりに全国高校野球選手権大会北海道大会に出場を果たした。監督の谷本献悟教諭は「前回の訪問で、人の痛みを知り感謝の気持ちを持つという意味で、部員は大きく成長できた」と振り返り、「生徒には少しでも被災した人の気持ちに

寄り添い、野球ができる幸せと感謝を感じてほしい」と願う。

山本主将(2年)は「昨年の訪問がとても財産になった。今年もしっかりと目に焼き付け、野球ができる環境に感謝したい」と話している。(佐藤いづみ、杉原輝美通信員)

集大成 出立

音更町図書館

【音更】社会福祉法人大谷菩提樹会(伊藤篤理事長)と学校法人大谷学園(同理事長)が運営する5保育園・幼稚園の今年度卒園児による「卒園記念書道作品展」が、町図書館(木野西通15)1階ギャラリーで開かれている。24日まで。

2年前から開かれ、今年度は木野南(音更)、宝来(同)、鈴蘭(同)、おひさま(帯